

岩国市文化協会会報

第 2 号

平成 20 年 3 月 20 日

編集 岩国市文化協会
発行

〒740-0017

岩国市今津町1-9-28

岩国市教育委員会

生涯学習課内

印刷 (有) 国 際 総 合

岩国文化



「香道」は香木から立ちのぼる一筋の香りを聞いて、優雅にして静寂な幽玄の境地を会得します。心を清く、深く鎮める精神性豊かな香道は世界に類をみない“香りの芸術”として、この国の伝統的な文化を伝えています。

【主な内容】

文化協会活動紹介

市民文化祭特集

文化功労賞等表彰

団体紹介

行事報告



文化協会活動紹介

■岩国市文化協会地区公演事業 『柱島公演』

地域における文化の振興と発展を目指して、九月二十二日柱島小・中学校で記念すべき第一回地区公演事業が、邦楽部門、邦舞部門、演劇部門の皆さんにご協力いただき開催されました。

当日は、柱島地区社協の敬老行事とあわせての開催となり、約五十名の皆様に、大変喜んで鑑賞していただきました。



■『第一回山口県総合芸術文化祭 メインフェスティバル岩国公演』参加

十二月二十四日、シンフォニア岩国において、記念すべき第一回目の事業が開催されました。

岩国市文化協会も主催者として参加し、大正琴・邦楽・合唱の皆さんが舞台上で活躍されました。

公演の終盤では、入場者に配布された蛍光棒が会場内できらめく中、全体合唱の歌声が響きフィナーレを迎えました。当日は、文化協会加盟の皆さんにもたくさんご来場いただき、ありがとうございました。



■『入門セミナー』会員募集の チラシ 市内の六万戸に配布

会員増強を図ることを目的として、『初心者入門セミナー』と銘打ちチラシを作成しました。

加盟団体から募集した三十七講座を掲載して、市内の六万世帯に新聞折り込みとして配布しました。



「香道」へのお誘い



香道泉山御流
中国支部九曜会
悠潺庵 川畑華香

香炉に香が炷かれ、ほのかな香りがゆらぎたつ、左の掌に香炉をのせ右手で覆うようにして香を聞く・・・。

人を陶然とさせる優雅な香り、数百年の時を隔てて伝えられてきた銘香と巡り合える香道は何ものにも代えがたい魅力があります。

視覚と聴覚に偏る情報化社会の中で、「香り」が注目されるようになって久しく、「香道」は静かなブームを迎えています。

日本の香り文化の歴史は古く、異国からもたらされた香木は、飛鳥時代に仏前で焚かれる供香にはじまり、平安時代には薫物として花開き、室町時代に香りの芸術「香道」として創成され現在に至っているものです。長い間、香道はいわば上流階級の遊びであり、高価な香木、香道具、歌道、作法等、大衆化し得ない要素がありました。近年多くの人々に『香りを楽しみながら雅びな心にふれる』文化として慕われるようになりました。私たちの勉強会では香道の華と云われる「組香」を体験し、組香の主題である古典文学や和歌、有職故実、美しい日本の四季の風情にも触れ、香りの知識と作法を身につけてゆきます。

第51回 岩国市民文化祭

■洋舞連盟（洋舞部門）

岩国市文化協会の一員として地域芸術文化の向上を目指し、長年岩国バレエ同好会として歩んで参りました。ジャズダンス、ソシアルダンス、ジャズバレエ、フラダンスの方々が次々に入会し、現在に至っております。

平成十六年より各部門の成果の披露と親睦を兼ねて洋舞フェスティバルを岩国市民文化祭の一環として開催いたしております。第二十一回国民文化祭にも参加いたしました。今年は六月二十九日に洋舞フェスティバルを開催する予定です。バレエの総合芸術の素晴らしさを理解していただきたく、全幕（白鳥の湖、くるみ割り人形など）の作品に取り組んで



参りました。今年はドン・キホーテ全幕をわが国を代表する牧阿佐美バレエ団の方々の賛助を得て、今年十一月十六日、市民文化祭でのバレエ公演を予定しております。

会員の中には日夜精進に励み、世界の舞台を目指している者もおります。これも岩国市の文化の向上に資するものと信じております。

（宮崎裕美 記）

■市美展に思う（写真）

文化協会の大きな行事である「市美展」ですが、写真の部は特に興味を持って見えています。昨今写真の部は、デジタル時代を迎え、それに伴う撮影機材やプリント方法等が、著しく変化してきました。その中にもあっても、物を撮る心と表現する心は、今も変わりません。でも変わって欲しい市美展会場施設は、未だ変っていない様子。私は、以前から照明関係の充実を、唱えています。予算の関係から実現していません。

会場展示は、照明の反射で物を見ているのに、その照明に、色がついていたのでは、どうしようもありません。貴金属等の販売と絵画等の照明が一緒という珍しい会場です。市民が、一年に一度心を込めて作品を持ち寄り楽しみにする「市美展」をぜひ近い将来、心配りのある会場に、変身して欲しいものです。

（篠原芳弘 記）

■岩国地区吟剣詩舞道連盟大会

『岩国地区吟剣詩舞道連盟大会』は、毎年岩国市民会館大ホールにおいて開催されています。（同連盟は、岩国市内十三流派約九〇〇名で構成、うち十一団体が岩国市文化協会に加盟）

昨年度は平成十九年十一月二十八日に行われ、伝統芸能としての吟剣詩舞を広く市民の方々に親しんで頂きました。詩吟、剣詩舞、日本舞踊、歌謡吟詠、叙情歌、歌謡曲等を取り入れ多彩な内容で、約四〇〇名が出演しました。更に、伝統芸能の次代への継承、発展を目指して、市内の幼稚園児約五〇名が参加し、吟剣詩舞を上手に発表しました。その可愛い元気な声と、無邪気な仕草に、会場から盛んな声援があり、大変盛大な大会となりました。なお、平成二十年度は第三十五回記念大会を開催する予定です。

（宮原賀風 記）



■岩国市民俳句大会（俳句部門）

去る十一月十八日、シンフォニア岩国において、岩国市民文化祭の一環、第五十一回岩国市民俳句大会（第一回山口県総合芸術文化祭、第四十四回山口県俳句大会）が開催されました。

出席者は二百八十三名。先ず繁富比呂史実行委員長の歓迎の挨拶に始まり、次に各来賓の皆様より祝辞をいただき、続いて入賞作品発表と表彰があり、三人の選者より選評が行われました。

当日の講演として「錦帯橋・匠の心」と題し、岩国伝統建築協同組合、前理事長海老崎桑次氏の格調高い興味深いお話をいただき、参加者一同、多大の感銘を受けました。

最後に、席題「橋」の入賞発表と表彰があり、大会は盛大かつ和やかなうちに閉会となりました。

（河上照女 記）



栄えある受賞 おめでとうございます。



●岩国市文化協会表彰●

久能賞

赤岸 重孝（あかぎし しげたか）
 (財)岩国白蛇保存会常務理事として、天然記念物「シロヘビ」の地道な研究と飼育の実務を進め、文化財の保護・保存活動の発展に貢献されました。

佐古 八重子（さこ やえこ）
 池坊岩国支部、淡交会岩国支部の役員を歴任し、長年にわたり多くの弟子の育成に努めるなど華道・茶道文化の発展に貢献されました。

文化功労賞

岡村 美瑛（おかむら みさ）
 長年にわたり、岩国女声合唱団の指揮・指導に尽力され、コンクールでは優秀な成績へと導かれ、また昨年度開催の国民文化祭「合唱の祭典」では地元合唱団をとりまとめるなど、合唱文化の向上に多大な貢献をされました。

金田 惺（かなだしずか）
 岩国エッセイライターの会長としての会の運営や後進の指導育成に尽力されるときともに、自らも各種の出版物を刊行するなど、文学を通じ文化の向上に貢献されました。

清水 芳園（しみず ほうえん）
 岩国書道協会の役員として、会の運営や後進の指導育成に尽力されるときともに、自らも各種展覧会で優秀な成績を収めるなど、書道文化の向上に貢献されました。

末岡 登喜子（すえおか ときこ）
 尾津かたつむり句会の会長、岩国俳句協会役員として活躍し、会の運営に尽力するとともに後進の指導にもあたり、俳句文化の向上に貢献されました。

角 宗俊（すみ そうしゅん）
 (社)表千家同門会山口県支部岩国地区の役員を歴任し、会や各種大会の運営、後進の育成に尽力されるなど茶道文化の向上に貢献されました。

田邑 嘉風（たむら かふう）
 嘉風流吟剣詩舞道の会長、岩国地区吟

剣詩舞道連盟の副会長として活躍し、優れた吟詠家として全国的にも高く評価されています。卓越した指導力により多くの弟子の育成をされるなど、吟剣詩舞道の普及発展に尽力されました。

弘兼 安雄（ひろかね やすお）
 長年にわたり、青潮短歌会・岩国短歌協会の運営に尽力し、自らも長年の作歌活動を通じて多くの歌友を育成し、また昨年度開催の国民文化祭「短歌大会」での功績など、短歌文化の向上に多大な貢献をされました。

藤本 時子（ふじもと ときこ）
 千草流和紙ちぎり絵野菊の会の会長・指導者として活躍され、会の運営や後進の技術向上に尽力されるときともに、各種展覧会で成果をあげられ手工芸文化の発展に貢献されました。

文化奨励賞

大坪 聖雲（おおつぼ せいうん）
 岩国書道協会に所属し、甲骨文字をキャンパスにアートとして書き上げる独特の作風で反響を呼び、個展やイベントに勢力的に取り組むなど、今後の活躍がますます期待されます。

●岩国市教育委員会表彰●

(岩国市文化協会関係)

安東 栄一（あんどう えいいち）
 岩国混声合唱団の代表として中国大会、全国大会で優秀な成績を収められ、国民文化祭「合唱の祭典」では、優れた指導

力を発揮し、合唱文化の振興に貢献されました。

音羽 晃（おとは あきら）
 国民文化祭「短歌大会」では、応募総数約四万首という応募数を達成され、鋭い感性と指導力で短歌の普及に尽力されるなど、短歌文化の振興に貢献されました。

宮本 歌千穂（みやもと かちほ）
 演奏家として卓越した音楽センスを有し、古典の継承はもとより新しい試みにも取り組まれ、優れた指導力により多くの弟子を育成されるなど、邦楽を中心に音楽文化の普及と発展に尽力されました。

(敬称略)



団体紹介

邦楽部門 岩国邦楽協会



(宮本歌千穂 記)

昭和五十三年に、長唄・邦舞の分離があり、岩国邦楽協会には、尺八・箏の部門が残って以来三十年になります。毎年邦楽大演奏会を十一月に市民会館で実施し、昨年は三十回という節目の演奏会を終えました。諸先生方のお骨折により、年々、幼・小・中の生徒も増え、会員も三百名余に達しております。演奏技術も逐次向上し中味の濃い文化祭となつていきます。加えて昭和五十九年岩国会場で実施された県邦楽大会を契機に毎年の出演が定着しております。年々まわり持ちの会場では流派を越えた各団体との交流も深まり、その地その地の歴史や文化を体感することにも意義を覚えます。また、菖蒲の季節に企画されます横山の能舞台での演奏にも定期的に参加し、家族的な雰囲気の中で観光客の皆様からの拍手をいただきながら楽しい一日を過ごしています。これから小さな歩みでも良い一歩一歩歩み続けます。

書道部門 岩国書道協会



(星野水琴 記)

本会は、昭和二十八年に設立され、現会長小國祥山は八代目に当たります。岩国市内で活動している六社中と個人参加の方々と構成され、現在の会員は九十四名です。漢字、仮名、近代詩と部門も所属団体も異なりますが、心を合わせ相談しながら、会員相互の親睦と書道技能の研鑽に励んでいます。また、会員の中には全国展、市美展において入賞、入選も多数あり優秀な成績を挙げています。年間の行事は、一月新春選抜書道展、七月協会展、八月講師を招いての講習会等です。昨年十一月には村上三島、平山郁夫記念館を巡る日帰りバスツアーを実施し、大変好評でした。時代の流れと共に、若い方々に書道を習う人が少なくなり、厳しい環境ですが、美しい文字を残していくため、頑張つて参ります。

合唱部門 コール錦



(檜原富美枝 記)

昭和五十一年七月、歌の好きな人、歌をこよなく愛する人達で、この地に初めて「ママさんコーラス」をたちあげました。毎週火曜日、公民館で三十二名の団員が著名な先生方の指導をいただきながら熱心に稽古に励んでおります。県や市のイベントのアトラクションやそのほか沢山の舞台に立たせていただき、音楽活動を通じて地域の皆さんと交流を深めることが出来ました。

主な年間行事は、公民館の「輝きフェスタ」山口県や岩国市の「コーラスフェスタ」市の連合婦人会の文化祭出演等です。また、コール錦五年おきの定期演奏会も大きな行事です。歌は心であり、自分達の感情を素直に表現できる絶好の場所です。山紫水明の大自然の中で、もつともつと感性を磨き、美しいハーモニーを作り出せるよう、団員一同、心を一つにして頑張つていきたいと思っています。

華道部門 池坊岩国支部



(柳澤静子 記)

華道家元池坊岩国支部は、昭和二十七年三月二十七日に設立されました。伝統文化池坊いけばなの「和と美」の精神に基づき精進しております。教授会、準教授会、青年部と一般に分かれ、現在四百余名の部員で構成しております。主な年間行事として、正月に家元主催の初生け会、支部初生け会、四月二日の吉香神社献花祭及び花供養、山口県連合支部花展、中国五県連合支部花展等にも参加しています。また、何百年と続いている家元の旧七夕会にも毎年数名が参加しています。以前、全国優勝を二回経験したほか、入賞は全国、地方で数知れません。また、市文化協会主催の文化祭、山口県いけばな作家協会などの花展にも参加し、ボランティア等にも協力させていただいています。

常に時代に応じた作風を学び、時に花伝書を紐とけば、五百有余年の歴史の奥深さ、巾の広さ、現代に通じる理論に驚き、学ぶことの多さに感動します。一木、一草、一花と対話し、一瓶を生けあげるよろこびを次代へしっかりと伝承したいものと思います。

文化協会行事報告（平成19年度）

平成十六年以降「岩国市民川柳大会」を開催して、近郷川柳会及び柳友との交流を深めています。昨年は「第一回山口県総合芸術文化祭・第五十五回山口県川柳大会」を引受けシンフォニア岩国で開催しました。

駄洒落のたぐいという誤解があるのは残念なことです。これを正し、岩国の地に「本格川柳」の根を張らし、ていきたいと願っています。(藤中公人記)



平成 19 年	4 月 25 日	第一回企画委員会
	5 月 15 日	第一回理事会
	5 月 29 日	代議員会
	5 月 31 日	山口県文化連盟総会出席
	7 月 31 日	第一回事業委員会
	8 月 7 日	久能賞選考委員会
	8 月 17 日	第二回理事会
	9 月 22 日	地区公演事業「柱島公演」
	10 月 8 日	第二回企画委員会
	11 月 25 日	岩国市文化功労賞等表彰式・ 祝賀会
	12 月 7 日	第一回編集委員会
	12 月 12 日	初心者入門セミナーチラシ配布
	12 月 24 日	第一回会員委員会・ 第三回理事会
	12 月 24 日	第一回山口県総合芸術文化祭 岩国公演
平成 20 年	1 月 9 日	第二回編集委員会
	2 月 8 日	第三回編集委員会
	2 月 28 日	第四回編集委員会
	3 月 7 日	第五回編集委員会

文化協会役員紹介(平成19年度)

顧問	福田 良彦
會長	藤谷 光信
副會長	佐々生 君子
	岩見屋 健
	廣重 光風
理事長	元島 祥次
常務理事	森本 佐文
理事	安東 栄一
	合唱
	文学
	生涯學習課

表紙・写真紹介の香道では、香りを嗅ぐといわず、「聞く」と表現されます。前回の能楽が幽玄の世界を求めるのに共通しています。

能の世界では、ワキがシテの言を聞き、癒す役目をしているようです。香道の世界でも香木というシテの発する言を人間が聞きわけなのでしょう。

静寂の中に動きを際立たせ、神仏靈の存在を感得させる文化です。聞法が生死の際に役立つのに似ています。

文化は、他者の声を一人の世界が聞き
わける行程かもしれません。

今回は、初の文化協会地区公演―柱島公演（演劇、邦楽、邦舞）のほか、市民文化祭参加の洋舞、写真、吟剣詩舞、俳句の四部門の活動を紹介しました。また、邦楽、書道、合唱、華道、川柳の各部門の執筆をいただき、掲載しました。

今後とも本「会報」へのご協力ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(編集委員 Ⅱ 久村・吉村・武重・元島)

堀
豐輝

(平成二十年三月一日現在)

文学 生涯学習 合唱 音楽 歌謡 華道 茶道 書道 短歌 俳句 クラフト 演劇 映像 能楽 邦舞 民謡 高校 洋舞 邦楽 絵画等 盆栽 吟剣詩舞